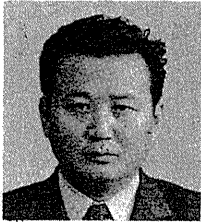


受賞者の業績

岡村 敏弘氏 46歳(秋田県・医師)



秋田県厚生農業協同組合連合会由利組合総合病院の小児科医長として病院勤務のかたわら、保健所嘱託医として乳幼児健診、健康管理指導業務に従事し、市町村の要請に積極的に対応し、山間僻地、積雪寒冷をいとわず地域の母子保健に献身的活動を展開している。特に先天性代謝異常症の検査方式の開発につとめるほか、小児心臓、遺伝クリニックの開設等地域のニーズに対応し、精力的に母性、小児の保健指導に終始している。

五日市昭子氏 48歳(岩手県・保健婦)



十和田八幡平国立公園の北側の農山村である安代町は、農山村特有の保育衛生環境で母子保健に対する関心も低く、乳幼児死亡、周産期死亡率が非常に高い町で、「乳児死亡半減運動」を展開。各部落を巡回して積極的に実践活動を行い、栄養法別乳児の疾病罹病状況調査を実施し、その結果から母性、乳幼児の食生活の改善等意欲的に活動して、46年、52年の2回、遂に乳児死亡ゼロを達成している。

渡部 久子氏 48歳(福島県・保健婦)



冬期は、1メートル余の積雪を見る山峡の田島町で、隣町である下郷町の保健婦として勤務当時から、現在に至るまで乳児死亡、新生児死亡、死産の減少に力をそそぎ、厳しい地形、気象環境を克服し、四季を通じて町のすみずみまで家庭を訪問したり、また、泊りかけで集団指導をするなど、地域に密着した母子保健活動を展開している。

田中 洋子氏 44歳(千葉県・主婦)



千葉県野田市で母子保健推進員として活躍して8年余。妊産婦、乳幼児の訪問相談、各種健診の勧奨及び異常発見、健診時の補助等、地域における母子保健のため日夜ボランティア活動を続けている。急激な地域開発に伴う人口構成等から子育ては諸種の問題と不安を生起している現況で地域の母親や母子保健関係者の深い信頼と期待に支えられて、活動に励んでいる。

安部 コウ氏 47歳(埼玉県・保健婦)



庄和町保健センターでみずから率先して、乳幼児保健相談を受け、時間外、休日も家庭訪問して母子保健思想の啓蒙普及につとめるとともに、愛育班の育成、保健婦等後輩の指導にあたるほか、母子健康センターの充実を図り、生まれてから老年まで生涯を通じての健康管理の実現を目標にフル回転をしている。

大原 恵氏 31歳(山梨県・保健婦)



健康の基盤は母子保健でありその重要性を1人1人が認識することであると考え、愛育組識の育成・充実のため、愛育班員の教育指導につとめるとともに「愛育だより」、「愛育のあゆみ」発行の中心となって愛育会活動を推進するほか、婚前学級をはじめ各種教室等を開催し、青年層から若い母親のよき相談者として活躍している。

藪 啓子氏 46歳(滋賀県・保健婦)



医療機関の乏しい土山町の山間僻地で、母子保健活動をきめ細かく、かつ系統的に実践し、妊産婦はもちろんのこと、各年代にわたる町民全員から町のお母さんとして慕われている。将来は、僻地のための救急活動、未熟児保育等に力を注ぎたいとはりきっている。

百田百合子氏 47歳(島根県・保健婦)



川本町の保健課長補佐。地域の特性から川本町内を3地区に分けて、生後2か月から12か月の乳児を対象に健康相談を開設しているほか、母子保健推進員を活用して、新生児訪問を強化し正しい保育を指導している。将来は母乳哺育百パーセントを目標としている。また川本町ほか7か町村合同の心身障害児対策のリーダーでもある。

大田 歌子氏 49歳(山口県・保健婦)



乳児死亡率、流産率も高く、母子保健は全く手つかずの状況にあったむつみ村で僻地の母子保健対策に取り組み、地域婦人会、民生委員、青年団等へはたらきかけ、意欲的かつ地道に活動を推進し母子保健思想の啓蒙普及につとめてきた。46年以降53年を除きむつみ村の乳児死亡ゼロの実績が高く評価されている。

谷川アサ子氏 49歳(香川県・保健婦)



地区面積の86パーセントを山林が占める美合村の初代保健婦で、医療機関がなく、また、妊婦といえども労働に明け暮れ、栄養不足による周産期死亡率が異常に高いことを憂え、谷間山腹に点在する家庭を精力的に訪問し、「よい子を生み育てる運動」を展開、常に山間僻地の中で母子とともに歩んできた。

渡邊 和恵氏 47歳(愛媛県・保健婦)



瀬戸内海に臨む静かな町である小松町の主任保健婦。22年余のキャリアをもち、乳幼児の実態調査、母と子の健康相談、各種学級の開催等、地域住民に密着した母子保健を推進し着々とその成果を挙げ、今回それが認められたもの。将来の目標として妊産婦、乳幼児死亡率ゼロの達成に意欲を燃やしている。

原田 菊子氏 45歳(佐賀県・保健婦)



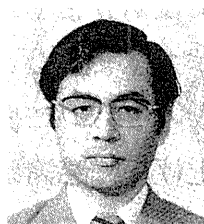
三根町の地域の特性から問題点を的確にとらえて、段階的系統的に重点指導を展開。きめ細かく母子保健を推進して、新生児死亡及び周産期死亡ともに50年から5か年連続ゼロのすばらしい成果を挙げる等、地域の母子保健の充実向上に強い情熱を注いでいる。

石原田美子氏 49歳(名古屋市・保健婦)



名古屋駅西は、開発整備事業の推進に伴い、生活困窮者のたまり住む場であるが、その中に多くの母と子が含まれ、住民票や母子健康手帳もないという、全くの悪環境の中を身の危険を感じつつも、根気よく訪問活動を続け、恵まれない母子のために献身的に相談指導にあたるほか、核家族で戸惑う若い母親の連帯意識を強め、健康で明るい子育てを願い、母子グループの育成等、都会がもつ諸問題に積極的に取り組み母子保健の向上に努力している。

澤田 淳氏 43歳(京都市・医師)



府立医大小児科で神経芽細胞腫早期発見のための乳児期のマス・スクリーニングの実施、乳児期の腫瘍性疾患早期発見のためのキャンペーンと母親教育の推進等、医学、治療学の専門分野で研究活動を続けている。将来はこれらの研究はもちろん、小児がんの早期発見、早期治癒のため、母親に早期発見の教育を実施する等の構想もあり、母子保健の発展向上のため大きな期待がよせられている。

慶田はる子氏 46歳(鹿児島市・助産婦)



鹿児島市山下保健所に勤務。保健所に助産婦として勤務以来24年にわたり、地域住民の公衆衛生思想の向上、妊婦死亡率、乳児死亡率の改善、婚前新婚学級の開設等一貫した母子保健指導の体系化につとめ、将来は、学校保健や地域保健に連携いした性教育の指導体系化に意欲を燃やしている。また、鹿児島大学保健婦助産婦学校や医師会高看の講師として後輩の育成にあたっている。